

優秀賞

その笑顔に、ありがとう

千葉県 法典小学校 六年 佐藤陽葵

「おねえちゃん、ありがとう。」

私は、去年の夏に病気を治すために入院をしました。体は辛かったけれど、

(学校休むのいやだなあ。)とか、

(クラスみんなどうしているかなあ。)と、ベッドの上でいつも考えていました。

そんなときに、うれしい贈り物が届きました。それは、クラスみんなが作ってくれた、たくさんの折鶴とメッセージカードでした。クラスみんなの気持ちを知って私は、

(みんなありがとう。早く学校に行けるように頑張るぞ!)そう心に決めました。

入院して数日がたったある日、カーテンで区切られたとなりのベッドから、さみしそうに泣いている声が聞こえてきました。ずっと泣いているので、

(どうしたのかなあ、大丈夫かなあ。)

と思ったけれど、カーテンがあって様子も見えないので、何もできませんでした。けっきょくその子は、一日中泣いていました。心配になり、私は決心してカーテンごしに声をかけてみることにしました。

「大丈夫? どうしたの?」

声をかけたら、すぐに返事がありました。

「ママがいないの。ママ、ママー!」

と泣きながら話してくれました。どうにかしてあげようと思った私は、持っていたクマのぬいぐるみを使って、カーテンのすき間から話しかけてみることにしました。

「どうしたの? いっしょにあそびましょう!」

そうしたら、小さな女の子がカーテンから顔を出して、クマのぬいぐるみをだきしめて笑顔を見せてくれました。

この、『大丈夫? どうしたの?』のひとつから仲良くなって、治療の合間にいっしょに遊ぶようになりました。二人でぬり絵をしたり、折り紙をしたりして、楽しかったです。私に妹ができたみたいで、ちょっとうれしくもなりました。

そして退院の日。無事に退院できたうれしさと、あの子も早く退院できたらいいなと思う気持ちが入り混じっていました。女の子に、

「じゃあね、早く元気になってね。」と伝えたら、

「うん! おねえちゃんありがとう。」と笑顔で言ってくれました。

『ありがとう』。その言葉が今でもすごくうれしくて、心に残っています。

クラスみんなからの温かい気持ちをもらった私は、その気持ちが泣いている女の子を笑顔にしてあげたいという思いにつながりました。そのとき、(親切はつながっていくのかもしれない)と感じました。

笑顔になった女の子に、私もたくさんの元気や勇気をもらいました。入院したことによって、辛く大変なこともあったけれど、得たものもたくさんあった気がします。

『こちらこそ、ありがとう』。